

2005 FJ1600 鈴鹿シリーズ

■6月3日 金曜日 ドライ フルコース

前回は、予選、決勝と自分の力を出し切れず、自分の弱い所も表れ、本当に情けないレースをしました。そのことを絶対無駄にしない為にも、今回はよく考え落ち着いたレースをしようと思っていました。

そんな中、金曜日から練習に入り、この日はかなり古いタイヤで走り始めたのですが、いつもよりリヤのグリップが低く、ちょっとしたミスでタイムが出ません。しかし、そのタイヤでタイムを出す事が大事だと思い、セットもその状態に合わせて走りました。

いろいろな事を試しながら走り、リヤタイヤがタレてきた時でも安定してタイムを刻めるようなセットも見えてきて、この日もトップタイムで明日の予選を迎えることが出来ました。

■6月4日 土曜日 ドライ 公式予選

今回は、予選の前に練習走行が1枠あり、前回のレースで、予選、決勝と走っただけの程度のよいタイヤで走りました。

そして、今回のレースもこのタイヤでそのまま予選、決勝と走ろうと思っていたのですが、周りとのタイム差も少なく、絶対勝ちたい今レースは新品タイヤを入れる事にしました。

13:55 からという、一番暑い時間から予選が始まり、車にもタイヤにも厳しい状況だったのですが、新品タイヤという事もあり、セットも前の状態に戻し、単独で走れる先頭からコースインしました。

走り始めて3周目には、それなりのタイムが出たのですが、そこからタイムがなかなか伸びません。最後にはタイヤがズルズルになってきたのですが、練習での経験を思い出して、少しでもロスを少なく車を前に進めようと丁寧なアクセルワークで、ラスト1周渾身のアタック。しかし、最後にシフトミスをしてしまい、タイムアップは出来たのですが、3位で予選を終えてしまいました。トップとの差が0.38秒。自分のシフトミスさえなかったらと悔やみながらもすぐに気持ちを入れ替えて、明日の決勝に焦点を合わせます。

この日の自分は、ひたすら一人で走ったのですが、上位2人はお互いのスリップを使い合った事もあり、各ストレート共、自分より13km程速い事が判り、次の予選に向けての課題も見えてきたと思います。

■6月5日 日曜日 ドライ 決勝

この日も朝からいい天気で、決勝が始まる9時前には、気温、路温共に、物凄く上昇し、前日の予選と同じようなコンディションにまでなっていました。メカニックの人と話し合い、レース後半「周りのタイヤがタレ始めてからが勝負」とセットを変更。前回のレースを思い出し、落ち着いてフォーメーションラップでタイヤを温め、いよいよ決勝スタート。

シグナルレッド・消灯・スタート。

タイミングもバッチリで、ホイールスピンも最小限に抑え、1コーナーまでに1台をパスして、2位に浮上。そのままトップにピッタリ張り付き、ペアピンでのミスを見逃さず、並びかけ、まっちゃんで一気にトップに浮上。

そこからは2位以下を引き離そうと、アタックし続けます。しかしそんなに甘くはなく、4周目のまっちゃん、5周目のホームストレートと立て続けにパスされ、3位まで後退。前回までの自分なら、ここで焦ってしまい、ミスをしたと思いますが、今回は前回の経験を生かし、2台の後ろから様子を伺います。何回か2位をパスしますが、ストレートですぐに抜き返され、自分が勝負をかけるポイントは、次のストレートまでコーナーが続く1コーナーか、シケインしかない事に気付きます。その時、自分は3位で、残り周回数も残りわずか。2位、1位と立て続けにパス出来るかを考えた時、2位にはなれても、優勝は厳しいかなあと感じ、ここは後ろで様子を見て、最後のチャンスに賭けるしかないと思いました。

そして、ファイナルラップの130Rを前回で抜けた時、2位の選手が1位の選手のアウト側に並びかけているのが見え、そのまま2台のイン側にマシンを滑り込ませます。3台横並びでのシケインのブレーキング。そこから真ん中の選手がスピンし始め、アウト側の選手もそれを避け切れずスピン。イン側にいた自分も、どうにかコントロールしていたのですが、最後に耐え切れずスピンしてしまいました。しかし、スピンしながらも次の事を考え、エンジンを止めないようにして、そのまま再スタートする事が出来、後続を抑えて、1位でチェッカーを受けることが出来ました。

その瞬間、言い表しようのない嬉しさが込み上げ、何度もガッツポーズをし、人生初の優勝をしっかりと味わいながら、ウィニング・ランを終えました。

今回の優勝は、運がよかったというのもあると思うのですが、前回の経験をしっかりと生かした結果だとも思うので、こういう事をしっかりと受け止め、これからのレースに繋げていきたいです。

この優勝は、服部尚貴オーナーや、館監督、メカニックの方々、スポンサー様など、物凄く沢山人達のおかげで成し得た物なので、その事をしっかりと胸に留め、これからもチャンピオンを目指し、突き進んでいきます。引き続きご指導、応援よろしく申し上げます。